

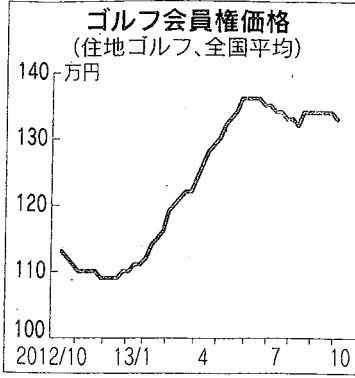
# ゴルフ会員権、上昇一服

## 普及価格帯、振るわず

ゴルフ会員権価格の上昇が一服している。国内の景況感の改善で昨年末から上昇してきたが、最近になって上昇力が鈍り、一部の会員権は値下がりも転じている。ゴルフ仲介大手の住地ゴルフ（東京・中央）によると10月第1週の全国のゴルフ会員の平均価格は133万円。6月第3週の136万円を付けた後は頭打ちだ。

平均価格は6月までに昨年末に比べて25%上昇。会社役員や医者などの富裕層を中心に高額コース（500万円以上）の購入が目立った。しかし購買層が一般サラリーマンなどに広がらず上昇の勢いが止まっている。特にサラリーマン層でも比較的買いやすい50万円前後の「大衆コース」と呼ばれる価格帯の会員権の売りが振るわない。

「来春の消費税引き上げなどを控え景気の回復に確信が持てない中、購入に慎重になっている」（住地ゴルフの小林隆太郎社長）  
個別のコースでは千葉県の大宮ゴルフ倶楽部（大宮町）が45万円程度で夏前から値下がり



一部のゴルフ会員権は値下がり転じている

「来春の消費税引き上げなどを控え景気の回復に確信が持てない中、購入に慎重になっている」（住地ゴルフの小林隆太郎社長）  
個別のコースでは千葉県の大宮ゴルフ倶楽部（大宮町）が45万円程度で夏前から値下がり

が続けている。京都府の東城陽ゴルフ倶楽部（城陽市）は52万5000円程度、愛知県の葵カントリークラブ（幸田町）は80万円程度で下落傾向だ。高額コースでも東京都の東京よみうりカントリークラブ（稲城市）が1400万円程度と6月初旬から10%強下落した。ただ企業が複数の高額コースの会員権を買い求めるなど一部で根強い需要があるため、相場が大きく崩れるとの見方は少ない。サラリーマンの間でも、相場の先高観から売りを手控える動きがある。